

Elementary Archaeological Report

てらこや埋文

平成30年
春号

発掘トピックス 吉田キャンパス中央公園で発掘調査中です

(吉田遺跡) 福利厚生施設新営工事に伴う予備・本発掘調査

吉田キャンパスの真ん中には、「中央公園」と呼ばれる芝生広場があります（図1 ○地点）。本学の吉田地区への統合移転以降、平成18年（2006）までは長らく噴水プールのある公園として、平成18年度以降は駐輪場、芝生公園と姿を変えながら、学生や教職員の憩いの空間として親しまれてきました。

平成29年11月に至り、当地に福利厚生施設（山口大学生協建物）の新営が計画されたことを受け、平成30年1月15日より予備発掘調査を実施することになりました。

調査の結果、現地表よりおよそ1m下に、竪穴式住居跡の可能性がある大型方形遺構や柱穴、溝状遺構など、多数の遺構が存在していることが明らかとなり、出土遺物から、古墳時代の集落址である可能性が高いことが判明しました（写真1）。

中央公園の北に隣接する総合図書館では、平成24年度に実施した3号館増築工事に伴う発掘調査にて、弥生時代から鎌倉時代にかけての多量の土器が投棄された東－西方向の自然河川を確認しました。これらの遺物は、河川の右岸部、総合図書館の北に位置する丘陵（大学会館前庭部＝遺跡保存地区や第2学生食堂敷地）上に集落を営んだ人々が投棄したと推定されますが、自然河川の左岸部については、総合図書館1号館や農学部校舎、理学部校舎などが未調査のまま建設されたため、地下の様相が不明のまま今日に至りました。

予備発掘調査の結果は、当館にとって衝撃的な内容でした。この貴重な遺構群を保護するべく、ただちに関係部局や山口大学生協に施設の設計や建設位置の変更を求めましたが、本学当局の強い意志により、計画通りに開発を実施することが決定され、残念ながら地下の遺跡は記録作業を行った上で消滅する運びとなりました。

2月22日より、業務内容を本発掘調査に切り替え、調査を実施しています。開発面積が1,100m²と広く、遺構面も地下1mと深いため、本文執筆時（3月11日）現在も重機掘削を行っています（写真2）。現状としては、調査区の低地側（西側）に遺物包含層が形成されており、遺構は調査区全域に密に分布すると予想されます。

長期間に及ぶ調査になりそうです。安全のためフェンスで敷地を囲っていますが、周囲の道路から遺跡見学が可能です。また、声をかけていただければ敷地内での見学も受け付けます。この調査を機会に、吉田遺跡の特徴やその重要性について学んでいただけたと幸いです。遺跡もそれを望んでいると思います。

学外の方のため、調査終盤（6月頃？）に調査の現地説明会を予定しています。詳細は本学・本館ホームページにてお知らせしますので、ぜひご参加ください。

(横山成己)



図1 吉田構内キャンバスマップ

写真1 予備発掘調査の模様（北から）
1月31日撮影写真2 本発掘調査重機掘削風景（北から）
3月13日撮影

展示トピックス 継続って大変だけど大切

①第5回山口大学所蔵学術資産継承事業成果展

『宝山の一角』を共催にて開催

恒例となる全学委員会「山口大学学術資産継承事業委員会」主催、当館共催の事業成果展『宝山の一角』も5回目を迎えました（写真3・4）。

展示は前期・後期の2部構成で、前期展は山口商工会議所主催「山口お宝展」への参加企画も兼ね平成29年2月25日（土）から4月21日（金）まで、後期展は5月8日（月）から6月30日（金）までの会期で開催されました。

当館は共催館として展示会場の管理を行うとともに、前期展にて見島ジーコンボ古墳群（山口県萩市所在）出土資料を出展しました。

前期展では、文書資料として西山塾及び大楽源太郎資料（図書館）、地震と断層に関連する鉱物・岩石資料（理学部）、美術資料として植木未魚子作品（教育学部）、商品資料として山口焼（経済学部）が、後期展では文書資料として近現代東アジア関連資料（経済学部）、考古資料として立野経塚（山口県光市所在）出土経筒、鉱物資料として新鉱物と稀産鉱物（工学部）、生物標本資料としてニホンザルの交連骨格標本（共同獣医学部）、シロアリと秋吉台の昆虫（農学部）が展示されました。

前後期ともミュージアムトーク（展示解説）を開催しましたが、特に後期展のトークは所蔵学部の教員や大学院生が解説を行ったこともあり、参加者も多く熱気溢れる会になりました。

前期展では720名、後期展では565名、総数1,285名の方々に観覧いただきました。『宝山の一角』展は、新入生のガイダンスや授業の課題として活用されることが多くなっています。本学の名物行事として継続するよう、当館としては今後も協力を惜しまないつもりです。

②第38回企画展

『大きさくらべ～大きいモノと小さいモノ～』を開催

昨今、博物館が夏休み期間に開催する特別展や企画展が自然史系に偏りすぎている気がするんですけど、皆さんはどのように感じていますか？ 恐竜展やクジラ展、昆虫展や鉄道展、理化学系ハンズオン展示などなど。需要があるからこそその開催なのでしょうが、個人的には「稼ぎ時」感がギラギラしているようで…気に触ったらゴメンナサイ。一方この期間、歴史民俗系の博物館は閑古鳥が鳴いている…気がします。気に触ったらゴメンナサイ。

当館も歴史民俗系の博物館施設ですが、なおかつ8～9月は学休期間となるため、開店休業状態が続きます。そこで、第38回企画展では、自然史系に目もくれないコアな歴史好きっ子のため、初の子ども向け展示を開催することにしました。

テーマは「考古資料の大きさ」。人間の使う道具には、大きいモノや小さいモノが存在します。そして、モノの大きさには、使い道や生活風習が反映されます。展示では、大きさの違う実物資料やレプリカを展示しました。さらに、いつもは「パネルの文字量が多い」と苦情を受ける当館の展示ですが、今回は「文字を大きく、文字を少なく」し、特別サービスとして、漢字にできる限り振り仮名をつけました。

7月18日（火）から9月15日（金）の会期中、527名の方々に観覧いただきましたが、残念ながら小中学生の入館は数名にとどまりました。完全なる敗北。一方で会期中の酷暑日にオープンキャンパスが開催されたため、高校生の避暑地としての役割は十二分に果たしました。次年度の夏は社会に迎合せず、超難解な考古資料展示を行います。お楽しみに。



写真3 第5回『宝山の一角』
前期展ミュージアムトークの模様
4月1日撮影



写真4 第4回『宝山の一角』
後期展の模様
5月8日撮影



写真5 第38回企画展
『大きさくらべ～大きいモノと小さいモノ～』
7月14日撮影



写真6 第37回企画展
『大きさくらべ～大きいモノと小さいモノ～』
7月14日撮影

③第39回企画展

『40年の歩み～館蔵名品展～』を開催

山口大学は、かつては山口市のパークロード周辺や下関市長府に各学部が散在する状態でしたが、昭和41年(1966)に山口市吉田キャンパスへの統合移転を開始しました。その造成工事中、地下から多量の埋蔵文化財が出土したため、翌昭和42年(1967)に学長を団長とする山口大学吉田遺跡調査団が組織され、本格的な吉田遺跡の発掘調査が開始されることになりました。

統合移転は昭和48年(1973)にひとまずの終了を迎え、その間に出土した埋蔵文化財や各種調査記録を保管するため、またその後の学内の埋蔵文化財保護業務を行うため、昭和52年(1977)に埋蔵文化財資料館が竣工し、翌昭和53年(1978)年に構内遺跡調査要綱が制定され、本学の埋蔵文化財保護業務は調査団から資料館へ正式に引き継がれました。

以降現在に至るまで、当館が学内の埋蔵文化財保護の重責を担ってきましたが、本年度が40周年にあてるところから、『40年の歩み～館蔵名品展』と題して企画展示を開催することとなりました。

当館所蔵考古資料は、大きく分けて「構内遺跡出土資料」と、主として本学名誉教授の小野忠渕氏が、昭和20年代から30年代にかけて山口県内各遺跡にて発掘調査を実施した際に出土した資料群を引き継いだ「山口県内考古資料」に大別されます。今回の展示では、その中から特に歴史的価値や希少性が高いものを選択し、公開しました。

平成29年10月2日(月)から平成30年2月2日(金)までの会期中、438名の方々に足を運んでいただきました。「あれから40年…」という感慨もひとしおですが、当館はこれからも埋蔵文化財保護業務を継続しますし、展示活動や当広報誌の刊行など、情報公開も継続します。40年後、埋蔵文化財資料館はどのような姿になっているのでしょうか。

④平成29年度山口県大学ML連携特別展

『やまぐちの大学－University College Yamaguchi－』に参加

参加館が共通テーマに沿って各大学や館の特性を生かした学術資料または研究成果の展示を開催するという現行体制での5年目を迎えたことを記念し、山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携特別展が初めて合同展示を行うことになりました。会場はなんと山口県立山口博物館。

今回こそは県内全大学参加で、と願っていましたが、残念ながら事業設立当初よりのメンバーである梅光学院大学博物館・図書館がまさかの不参加。それでも、徳山大学図書館と山口短期付属大学館の初参加があり、13大学17館により開催されることとなりました。

今回は特別な共通テーマも定められなかったため、当館は昨今の発掘調査成果で注目を集めている「吉田遺跡出土古代官衙関連出土資料」を展出しました。

事業事務局の発表では、平成29年11月25日(土)から12月24日(日)の会期中、約600人のお客様を迎えたそうです。気候が良いとは言えない季節での開催にもかかわらず、ご観覧いただいた皆さま、ありがとうございました。

また、関連事業としてシンポジウム「あなたの街の大学博物館・図書館～目的と役割、現状と未来～」が山口県立図書館レクチャールームにて開催され、筆者も事業の経緯説明や事例報告、討論に参加しました。こちらも雨天での開催でしたが、内容の濃いシンポジウムであったと思います。

来年度以降、この連携事業がどのように展開するのか不明ですが、5年後に再び合同展が開催できるよう期待しています。(横山成己)



写真7 第39回企画展
『40年の歩み～館蔵名品展～』資料館外観
9月29日撮影



写真8 第39回企画展
『40年の歩み～館蔵名品展～』展示の模様
9月29日撮影



写真9 平成29年度山口県大学ML連携特別展
『やまぐちの大学－University College Yamaguchi－』
展示の模様
11月25日撮影



写真10 平成29年度山口県大学ML連携事業
シンポジウム「あなたの街の大学博物館・図書館」
討論風景
12月10日(土)撮影

活動トピックス 数は少ないが内容は濃い

①山口県立山口博物館との連携事業『古代ウォーク』を開催しました

当館は、平成27年(2016)6月24日に山口県立山口博物館と連携協力協定を締結しました。平成27年度はその連携の第一歩として、本学吉田キャンパスが立地する山口市平川地区を素材とした企画展『半世紀の遺跡調査から読み解く 先史・古代の平川』を当館にて開催し、関連して『山口市平川地区の遺跡探訪』を実施しました。翌平成28年度は、「国立と県立の施設が連携するのであれば、より広域に活動の場を広げるべき」との意見で一致したことから、県東部の田布施町にて『遺跡ウォークラリー』(共催:田布施町教育委員会)を開催しました。

平成29年度の事業については、山口県立山口博物館との協議の上、萩市大井を廻る『古代ウォーク』の開催が決定されました。萩市大井は、現在では人口の少ない農村・漁村地区となっていますが、古代においては阿武国造の拠点と推定される地域です。幾度も視察を重ね、充実した内容の遺跡めぐりとすべく、準備を行いました。

『古代ウォーク』開催は、10月14日(土)。15名の募集でしたが、萩市大井住民の団体申し込みもあったことから、21名の参加者で実施することとなりました。当日のスケジュールは以下の通りです。

13時00分～13時40分

萩博物館にて資料の熟覧と解説(写真11)

(円光寺古墳・円光寺埴輪窯・大井大寺廃寺出土・採集品)

13時40分～14時20分

熟覧資料片付け・それぞれの自家用車にて萩市大井公民館に移動

14時30分

天長山古墳(標高約70mの山頂にある4世紀後半～5世紀初頭の古墳)の解説

14時35分

円光寺古墳(6世紀中ごろの箱式石棺墳。環頭柄頭3、耳環2など出土)の見学(写真12)

14時45分

円光寺埴輪窯(標高約20mの丘陵斜面上にかつて存在した、山口県で唯一確認されている埴輪窯。埴輪の供給先不明。5世紀末～6世紀初頭)の見学

14時50分

円光寺穴観音古墳(標高約20mの丘陵斜面上にある径約22mの円墳と目され、山口県日本海沿岸では最大級の全長11.2mの横穴式石室を有する。6世紀末～7世紀初頭)の見学(写真13)

15時50分

大井大寺廃寺(大井平野の東端にあった、7世紀後半から8世紀後半まで存続した古代寺院。大井川による浸食により、現在は半壊している)の見学

16時15分

大応寺前:大井大寺廃寺塔芯礎・礎石(昭和8年に大井川河底から引き上げられた塔芯礎など)の見学(写真14)

16時50分

萩市大井公民館にゴール・解散

かなりハードな行程でしたが、参加者全員で元気に歩ききました。参加者からは、「大井に住んでいて知らないことばかりでした」「適度な運動で、説明もわかりやすく楽しかった！！」「せっかくの遺跡等を平易な本にまとめて欲しい」など嬉しい声が聞かれました。年1回の取り組みですが、今後も充実した内容で継続したいと考えています。



写真11 「古代ウォーク」
萩博物館での資料熟覧
10月14日撮影



写真12 「古代ウォーク」
円光寺古墳見学
10月14日撮影



写真13 「古代ウォーク」
円光寺穴観音古墳見学
10月14日撮影



写真14 「古代ウォーク」
大井大寺廃寺塔芯礎・礎石見学
10月14日撮影

②考古資料 DB データベース、一般公開開始

教育・研究にぜひご活用ください！

本学には、各部局に所蔵される様々な学術資料に対し、保存・継承を目的とする活動をおこなう「学術資産継承事業委員会」が組織されています。具体的な活動は、委員会の下部に設けられた「博物専門部会」と「文書・典籍専門部会」がおこなっていますが、博物専門部会では各種学術資料データベースの構築が目標の一つに掲げられています。

筆者もこの活動に参加しており、当館に所蔵されている考古資料を対象に、「考古資料データベース」の公開準備を進めてきました。学内試験公開を経て、平成 29 年(2017)12 月 4 日に、晴れて一般公開を開始することができました。

考古資料データベースの特徴

URL <https://knowledge.lib.yamaguchi-u.ac.jp/arche/>

考古資料データベースには、平成 30 年(2018)3 月現在、422 件の資料、出土遺跡としては御屋敷山古墳、小周防相ヶ迫経塚、潮待貝塚、下原遺跡(か)、筈倉古墳、東之庄神田遺跡、見島ジーコンボ古墳群の 7 遺跡分が登録されています。

当データベースには、博物専門部会データベースワーキンググループの尽力により、考古学研究や教育に活用されるよう様々な工夫が施されています。

まず、キーワード検索ができるることは当然として、出土遺跡名・種別(土器・石器・木器・金属器・人骨歯など)・時代などの一覧から、探したい資料を選択できます(写真 15)。

各資料のページには、種別や部位、所属時代、出土遺跡名、出土遺構名、出土年月日などのメタデータが記されており(写真 16)、資料の詳細を知ることができます。

また、資料の掲載文献が山口大学にて刊行されているものであれば、本学の学術機関リポジトリ「YUNOCA」にリンクがかけられており、全文を Adobe PDF (Portable Document Format) にてダウンロードすることができます(写真 17)。

さらに大きな特徴が、さまざまな画像ファイルの提供です。遺物実測図については、等倍のものが PDF でダウンロードできるほか、Adobe Illustrator ファイル(ai ファイル)でも入手可能となっています(写真 18)。遺物画像は TIFF (Tagged Image File Format) ファイルでダウンロード可能です。

筆者が「こんなデータベースがあったらステキだな」と思っていたほぼ全てを反映させてもらいました。現状では日本で一番の考古資料データベースと考えています。もともとは自分が資料を管理する上での必要性からデータベースづくりを始めましたが、多くの方々の教育・研究に活用されれば喜びです。

その一方で、当館が発掘調査報告書にて公開している資料は、数千点。これから徐々に登録件数を増やしていくことは思うのですが、登録するペースより新たに資料が出土するペースの方が早いので、思うように作業が進んでいないのが実状です。焦らず、気長に登録を続けようと考えています。

山口大学学術資産継承事業委員会博物専門部会データベースワーキンググループでは、現在他の学術分野のデータベース構築にも取り組んでいます。今後ともデータベースをご活用いただくと同時に、委員会の活動にこれまでと変わらずにご理解、ご支援いただけますよう、よろしくお願いします。

(横山成己)

写真15 考古資料データベース
トップページ

写真16 考古資料データベース
個別資料頁

写真17 参考文献クリックで
山口大学機関リポジトリ「YUNOCA」
に接続可能

写真18 ファイルクリックで
実測図や画像がダウンロード可能

資料館への声 展示アンケートの回答を少しだけご紹介

平成 29 年度埋蔵文化財資料館 展示活動 アンケート結果

当館では、企画展ごとの入館者数、ご記入いただいたアンケート結果を集計しております。今回から、展示活動の一環として、集計結果をほんの一部ではありますが、公開していきたいと思います。

平成 29 年 3 月 2 日～4 月 21 日

第 5 回山口大学所蔵学術資産継承事業成果展 宝山の一角 前期

入館者数 720 人（内訳：一般 213 人 学生 469 人 教職員 38 人）

印象に残った展示物第 1 位

鉱物・岩石資料 テーマ「地震と断層」（理学部）

平成 29 年 5 月 8 日～6 月 30 日

第 5 回山口大学所蔵学術資産継承事業成果展 宝山の一角 後期

入館者数 565 人（内訳：一般 84 人 学生 438 人 教職員 43 人）

印象に残った展示物第 1 位

生物標本資料 ニホンザルの交連骨格標本（共同獣医学部）

シロアリと秋吉台の昆虫（農学部）

宝山の一角は、前期に関しては山口お宝展パンフレットや新聞記事で知って、来館される学外の方々が多く、すべての展示物を熱心にご覧になられている印象が強いです。全体を通しては、授業等で活用されるため、特に学生の利用者が多いです。

平成 29 年 7 月 18 日～9 月 15 日

第 38 回企画展 大きさくらべ

入館者数 527 人（内訳：一般 205 人 学生 293 人 教職員 29 人）

夏休みのため、学外の利用者が多いです。アンケート集計の結果、どの遺物も皆様の印象に残ったことが分かりました。展示テーマが親しみやすいものもあってか、アンケート回答率がよく、熱心なご意見もいただきました。

平成 29 年 10 月 2 日～2 月 2 日

第 39 回企画展 40 年の歩み～館蔵名品展～

入館者数 438 人（内訳：一般 213 人 学生 189 人 教職員 36 人）

竹製網代編み製品が特に印象的だったようですが、複数回答が多く、どの遺物も興味深く見ていただけたようです。学生さんからの質問があつたり、遺跡の見学をされている方が多かったり、嬉しい回答が沢山ありました。質問に答えられるコーナーを作りたいものです。

最後に、回答数こそ少ないものの、とても熱心に書いていただける、当館への意見要望を一部抜粋します。

- ・貴重なコレクションの公開展示を続けてほしい
- ・山大にしかないものをどんどんアピールして、誰でもみれるような企画展をして頂きたい
- ・土器をつくってみたい！！
- ・展示室に入ったらタイムスリップが味わえるような展示の仕方（時代ごとの生活や風景）をしてほしいです。
- ・構内遺跡の模型が見たい
- ・山口の古墳時代がどうだったかなど掘りさげてもらえるとおもしろいかも
- ・弥生土器の併行関係について
- ・教科書でよく見るものを集めてほしい

皆さまにお答えいただいたアンケートは、当館教職員がすべて拝見しております。何度も当館に足を運んでくださる方、学生さんや地域の方々に成果を還元できるよう、より一層の努力をいたします。教職員の方々にも、もう少し展示を観覧していただけるといいですね。

最新の展示内容については、当館ホームページをご覧ください。

（乃美友香）

資料館この一品 vol.22 山口大学医学部構内遺跡出土の縄文土器

東日本とは異なり、山口県では縄文土器はあまり良い状態では出土しません。小さな破片が多く、全体の形状や文様がうかがえる資料は少ないのです。こうした状況を考慮すると、今回ご紹介する資料はかなりの大型品といつて良いでしょう。すでに展示期間は終了しましたが、当資料は当館第39回企画展『40年の歩み～館蔵名品展～』でも展示された、山口大学構内遺跡出土の縄文時代資料として代表的なものです。

山口大学には3つのキャンパスがありますが、当資料は宇部市の小串キャンパス（医学部）の土地区画整理事業とともに、平成11年におこなわれた発掘調査の際に出土しました（図2）。この調査では、近接したトレンチより弥生時代終末から古墳時代初頭の土器もまとめて出土しています。土器は、当時河口域だったと思われる砂層から出土しているので、上流から流されてきた可能性もありますが、この付近は遺物が良好な状態で遺存する環境だったとみられます。

当資料は、九州北東部に分布の中心をおく縄文時代後期中葉（約4,000年前）の鐘崎式土器です。鐘崎式という型式名は、福岡県宗像市鐘崎貝塚（上八貝塚）の資料から土器型式が設定されたことに由来しています。鐘崎式土器は、縁帶文系土器群の影響を受けて成立しており、当資料にも磨消縄文ではなく、沈線を主体とする文様構成になっています（写真19）。くびれ部の直下に、鐘崎式土器に特徴的な沈線による渦巻状の文様と平行沈線が施されています。沈線は、波状となる口縁部の上面にもひいてあります。土器の表面をよく観察すると、浅い筋状の線がたくさんついています。これは土器を作る際に、卷貝を使って表面をなでたためにできたもので、土器の内面にも施されています。卷貝を用いた土器表面の調整方法は、この時期に広く用いられていました。鐘崎式土器は、九州北東部で発達した土器ですが、分布は九州だけでなく、山口県を含めた西部瀬戸内地域に広がっています（図3）。海を超えて同じ土器型式が分布する状況は、現在の感覚からすると意外かもしれません、このような広域の土器分布は遊動的な生活をしていた縄文時代にはむしろ自然なことといえるでしょう。

縄文時代の山口県は九州からの影響を受けたり、瀬戸内側の影響があつたりと、時期によって傾向が異なります。以前、『てらこや埋文』でご紹介した、下関市潮待貝塚の貝輪や光市東之庄神田遺跡の石棒と同様、本資料は縄文時代後期の九州北部との交流を強く示しています。鐘崎式土器は山口県東部にも分布しており、縄文時代後期中葉の主要な土器となっています。

図2をみると、海岸や丘陵裾に多くの縄文時代遺跡が分布していることがわかります。宇部市は早くから工業化が進み、海岸の環境が変わってしまいましたが、縄文時代の小串キャンパス周辺は丘陵裾部に位置し、海にも近いという、居住に適した場所であったと考えられます。小串キャンパス内では縄文時代の集落は見つかっていませんが、当資料が示すように、近くに集落が営まれた可能性はあるでしょう。山口県の縄文時代資料は少ないため、過去の発掘資料の再検討はとても重要な課題だといえます。今年度の当館年報にて、同じく宇部市に所在する月崎遺跡出土の当館所蔵資料が報告されていますので、ご覧いただければ幸いです。
(川島尚宗)

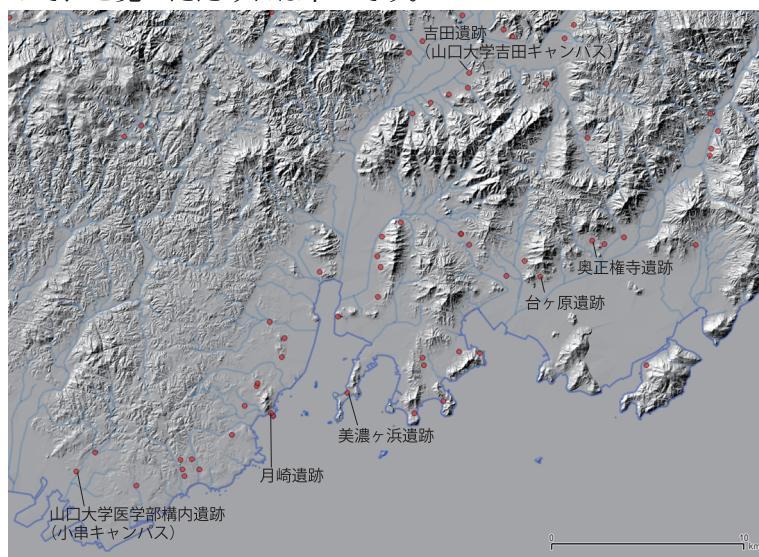


図2 小串キャンパス周辺の主要縄文時代遺跡
(国土地理院基盤地図情報数値標高モデルおよび
国土数値情報（河川・海岸線）を用いて作成)



写真19 小串キャンパス出土縄文土器

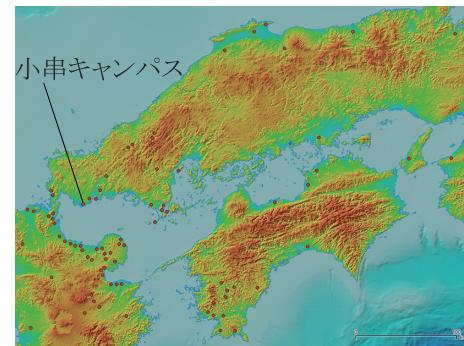


図3 鐘崎式土器の分布
(幸泉文子2008「中国地方における九州鐘崎式系縄文土器」
『地域・文化の考古学』図10下、地理院タイルより作成)

平成 29 年度 埋蔵文化財資料館の活動

4月 2/25(土)～4/21(金) 第5回山口大学学術資産継承事業成果展
『宝山の一角』前期展開催 ※共催事業 入館者総数 720名
4/1(土)『宝山の一角』前期展ミュージアムトーク開催

5月 5/8(月)～6/30(金) 第5回山口大学学術資産継承事業成果展
『宝山の一角』後期展開催 ※共催事業 入館者総数 565名
5/12(金) 山口県博物館協会総会出席

6月 6/3(土)『宝山の一角』後期展ミュージアムトーク開催

7月 7/5(水)・11(火)
理学部学生(4名)博物館実務実習
7/18(火)～9/15(金) 第38回企画展
『大きさくらべ～大きいモノと小さいモノ～』開催 入館者総数 527名
7/24(月)・25(火)
吉田構内教育学部附属特別支援学校ガス管更新工事に伴う立会調査

8月 8/5(土) オープンキャンパス臨時開館
8/25(火) 吉田構内教育実践センター前防火線破損に対する緊急立会調査

10月 10/2(月)～2/2(金) 第39回企画展
『40年の歩み～館蔵名品展～』開催 入館者総数 438名
10/13(金) 山口県市町埋蔵文化財連絡協議会総会出席
10/14(土) 山口県立山口博物館との共催事業
『古代ウォークラリー(萩市大井)』開催 参加者 21名
10/27(金) 下松市郷土資料展示収蔵施設「島の学び舎」開設1周年記念企画展
『よみがえるふるさとの古墳』11/2～1/30
資料貸し出し(御屋敷山古墳・花岡古墳)
10/28(土) ホームカミングデー臨時開館



写真 20 『宝山の一角』後期展
ミュージアムトーク風景
6月3日撮影



写真 21 吉田構内教育学部附属特別支援学校
ガス管更新工事に伴う立会調査
7月25日撮影



写真 22 吉田構内共同獣医学部解剖実習棟
屋外環境整備工事に伴う立会調査
11月6日撮影



写真 23 山口県大学ML連携特別展
野田学園高等学校生徒団体見学
12月15日撮影

11月 11/6(月)・7(火)
吉田構内共同獣医学部解剖実習棟屋外環境整備工事に伴う立会調査
11/12(日) 姫山祭(山口大学吉田キャンパス大学祭)臨時開館
11/15(水)・24(金)
吉田構内環境整備(ため池5)雨水改修工事に伴う立会調査
11/25(土)～12/24(日)
平成29年度山口県大学ML連携特別展
『やまぐちの大学－University College Yamaguchi－』
於：山口県立山口博物館 に出展参加 入館者数約600名

12月 12/4(月) 山口大学学術資産継承事業委員会「考古資料データベース」一般公開開始
12/10(日) 平成29年度山口県大学ML連携事業シンポジウム
『あなたの街の大学博物館・図書館～目的と役割、現状と未来～』
於：山口県立図書館レクチャーラームに参加 参加者 42名
12/15(金) 平成29年度山口県大学ML連携特別展
『やまぐちの大学－University College Yamaguchi－』
野田学園高等学校1・2年生団体見学・展示解説

1月 1/15(月)～31日(水)
吉田構内福利厚生施設新営工事に伴う予備発掘調査

2月 2/22(木)～継続中
吉田構内福利厚生施設新営工事に伴う本発掘調査

3月 3/8(木) 平成29年度山口県大学ML連携事業報告会参加
3/8(木) 花園大学教員・学生資料館見学 7名
3/19(月)～5/18(金) 第6回山口大学学術資産継承事業成果展
『宝山の一角』前期展開催 ※共催事業

編集・発行

山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1
【Tel/Fax】083-933-5035
【E-mail】yuam@yamaguchi-u.ac.jp
【HP】<http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp>

発行年月日 2018.3.30.

山口大学埋蔵文化財資料館通信

第28号

『てらこや埋文』2018春号